

ATTENTION

大荒れの市場での投資を、航海にたとえるとどう見えるか



この二つの船の絵。一つは世界最大級の大型客船。もう一つは、ご覧の通りヨットです。さて、この二つの船は、同じ海を航海しているとしましょう。そしてその海は大荒れ。さて、どちらが安全か。もちろん大型客船です。海は荒れていますから、大型客船も揺れるのは仕方ありませんが、転覆、沈没する危険はヨットよりかなり少ないはず。一方ヨットは波浪にもまれ、帆は折れ、転覆して沈没する可能性がかなり高いでしょう。これを資産運用のやり方で見ると、FXをやったり、レバレッジを効かせて自分の懐の数倍のリスクを背負ったり、リスクを知らずに仕組債を買わされたり、デイトレードなど短期勝負の売買をして、切った張ったというやり方があります。それは、推察の通りヨットです。一方は、これ以上ないほど世界の資産に広く分散して投資し、それらをじっと持ち続け、着実に成長している姿です。そしてそれは、世界最大の大型客船にたとえられます。なぜならこれ以上ないほど大きく、荒れた海でもしっかりと航海を続けられるように作られているからです。さて、どちらが人生の航海で無事に大嵐を切り抜けるでしょう。大型客船であることは自明です。さて、大型客船には安全に航海を続けるための全幅の信頼をおける船長が必要です。まさにびとうファイナンシャルサービスが、世界最大級の船を提供し、安全な航海を確実なものにしているのです。

COLUMN

新型コロナウイルスに思う

世界は新型コロナウイルスで、当初から思わぬ展開となっています。武漢の発生現場のそばに細菌研究所があり、そこから漏れたとか、中国政府は米国の軍隊が秘密裏に持ち込んだものだ、米国のせいにする始末です。真実は、中国の衛生状態の悪さが原因です。SARSも中国が発生源でしたが、まったくもって迷惑な話です。中国は「自分たちはコロナウイルスを克服した」などと自らを誇っていますが、まずは謙虚に世界に謝罪すべきでしょう。

いま皆が最も心配していることは自分や家族にうつらないかということ、コロナウイルスはいつ収束するかが見えないことです。長く続けば日常行動は制約され、いつものように動けなくなる。セミナー、コンサート、美術館巡り、結婚式、葬式までままなりません。海外に行くこと自体が目下、不可能という状況。こういう状態が続くと、うんざりしてきて、もういいやと、ついベルトを緩めなくなってくるのは、人の性ですが、油断大敵、手洗いうがいを習慣づけ、人込みにはなるべく行かないようにする、家や仕事場などいつもいるところは消毒するなど、無理なく続けるようにすることが、一番です。また規律ある生活をし、前向きな姿勢や考え方を持つことです。

人類は、これまで多くの伝染病と対峙してきましたが、いずれも克服してきています。今回もかならず克服することは間違いありません。要は、いかにこのような状況を過ごしていくか。いつまで続くかわからないところが最もつらいところですが、そうした中でも、淡々とやるべきことをやっていくことが、限られた時間を過ごす上で欠かせません。

MARKET

	(3月末)	(2月末比)
日経平均	18,917.01円	-2,225.95円 (-10.53%)
NYダウ	21,917.16ドル	-3,492.20ドル (-13.74%)
米ドル	107.60円	-0.50円 (-0.46%)

今月の言葉

信念は思想となり、思想は言葉となり、
言葉は行動となり、行動は習慣となり、
習慣は価値となり、価値は天命となる。

-マハトマ・ガンジー

バフェットは株の暴落にどう向き合うか

2月後半から、株の暴落が著しいです。1000ドル単位で一日動く激しい相場が続いています。こうした中で、バフェットはこのような暴落局面をどう見ているのか、そしてどう臨むべきと考えているか、じっくりと見てみましょう。

こういうときに思い起こされるのがバフェットの有名な言葉です。「周りの人が貪欲な時に恐れ、周りの人が恐れ憚っているときに貪欲になれ」

2008年9月のリーマンショック直後の10月16日、バフェットはニューヨーク・タイムズに個人名で寄稿しています。そのタイトルは「アメリカ(株)を買え。私は買っている。」

その記事には、人が崖から飛び降りようとしている絵がでかでかと載っています。この絵は、「何もこんな危険な時に株など買って大丈夫か、崖から飛び降りるようなものだ」といっているのです。そして、買った後も下がり続け、バフェットは買いを早まったといわれたものです。

その時バフェットはこうっています。

「私は、買った時が底かどうかはわからないが、安いということはわかる。」

当時バフェットは資本不足にあえぐ金融機関の株に大量に投資して、巨額の利益を得ました。まさに人や社会が困っているときに資本を提供している典型です。そしてその見返りは非常に大きいということです。

下落相場の際のバフェットの言葉：

「悪いニュースは投資家のベストフレンドだ。」

「憐れむべきは、いい気持ちで買える時にだけ株を買って、新聞の見出しが吐き気を催すようなときに売ってしまう人たちだ。」

株価が大幅に下落した時、市場のセンチメントが総悲観になった時に、バフェットが株を売るという選択肢はありません。

「長期的に見れば、株式市場は上がる。アメリカは二つの世界大戦や大恐慌、ブラックマンデー、数々の景気後退と、幾多の困難を20世紀に経験したが、ダウはその間66から11497に上がった」

バフェットに言わせれば、「株が下がれば安く買えるのだから喜ぶべきだ」ということです。

マンガーはこういいます。

「自分のほとんどの財産であるパークシャー株が半値になったことは、過去に3回あるが、まったく心配しなかった。株が半分になって落ち込むようなら、株をやる資格はない。」

バフェットは、こうも言います。

「上げ潮の時はだれでもいい成果を上げられるが、潮が引いたとき(現在のように市場が大きく下落した時)に、パンツをはいていない人がだれかがわかる。」

バフェットは1250億ドルの現金(そのほとんどがT-Bill)を抱え、まさに現在虎視眈々と、投資チャンスを狙っているに違いありません。それが個別銘柄の大量買いか、自社株買い、さらには、米国株全体(S&P500など)かはわからないが、投資チャンスを狙っていることは確かです。

バフェットが言っている言葉が改めて思い起こされます。

「10年に一度程度、経済の空全体に暗雲が立ち込めることがあるが、その時少しの間、金の雨を降らせる。我々はその時スプーンではなく、バケツを持っていく。」

まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に提供してはならず、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072
電子メール：info@bfsc.jp